

相談員(交通事故担当)作文課題

東京都の交通事故相談には、交通事故の被害者・加害者双方から、交通事故に起因する様々な相談が寄せられます。また、近年は自動車や二輪車の事故だけでなく、自転車同士や、自転車対歩行者の事故に関する相談が多く寄せられています。さらに、高齢者や未成年者、外国人が交通事故の当事者となる事例も数多くあります。

相談内容については、過失相殺や具体的な損害賠償額の算定、示談の進め方、保険会社等との交渉の仕方などが寄せられ、相談員は判例や多くの資料を基に、相談者が最適な解決策を得られるようアドバイスをしています。

下記相談事例を読んで、① 回答にあたっての論点、② 相談員として注意しなければならない点、③ 相談員に求められる資質について、あなたの考えを述べてください。

<相談事例>

夫が、横断歩道を歩行中、自動車にはねられ、頭蓋骨骨折や右下腿開放性骨折等の重傷を負いました。しばらく人事不省の状態が続いたものの、幸いにも意識は回復し、身体について特段の障害も生じて

いません。

相手は任意保険に加入していたこともあり、医療費や休業損害の支払いなどについて誠実な対応が行われました。

大けがにもかかわらず、意識は回復し、身体に後遺症も見受けられなかつたことから、当初は本人含め家族で非常に喜んでいました。

しかし、退院後暫くして、勤務先の上司から「仕事に復帰後非常に怒りっぽくなつた。若い人たちにもすぐ怒鳴る。緻密な仕事はほぼ無理で、新しいことは覚えられない、事故前とは全く別人のようになつてしまつてゐる。このままの勤務は難しいのではないか」という連絡がありました。

夫は事故後、感情の起伏が大きくなつたように感じていたものの、そこまでとは思つていませんでした。交通事故のケガが原因のようにも思ひますが、お金について相手とは既に示談書も交わしています。仕事が続けられるかも心配です。